

第 73 回高校展 A ブロック

大阪府立東淀川高等学校

安岡 真由美

日 時：令和 4 年 7 月 26 日(火)~7 月 31 日(日)

会 場：大阪芸術大学短期大学部 伊丹学舎

来場者数：400 名

A ブロックは、大阪芸術大学短期大学部 伊丹学舎での開催となった。大阪府外にあり、最寄り駅から徒歩 20 分程かかる為、会場の遠さは感じるが、何よりも無償できれいな会場を貸していただけただことは有難かった。絵画のサイズは 30~50 号とし、作品点数もホールに十分に収まる範囲だったため、全体的にゆったりとした展示となった。

展示の方法が、ベニヤ板と角材で作った作品を引っ掛けるためのものを、ガンタッカーで壁に打ち付け、そこに作品の枠を掛ける、というものだった。鎖や針金、ヒートンなどを使わない展示方法のため、事前に各校で引っ掛けるものを作成して持参した。

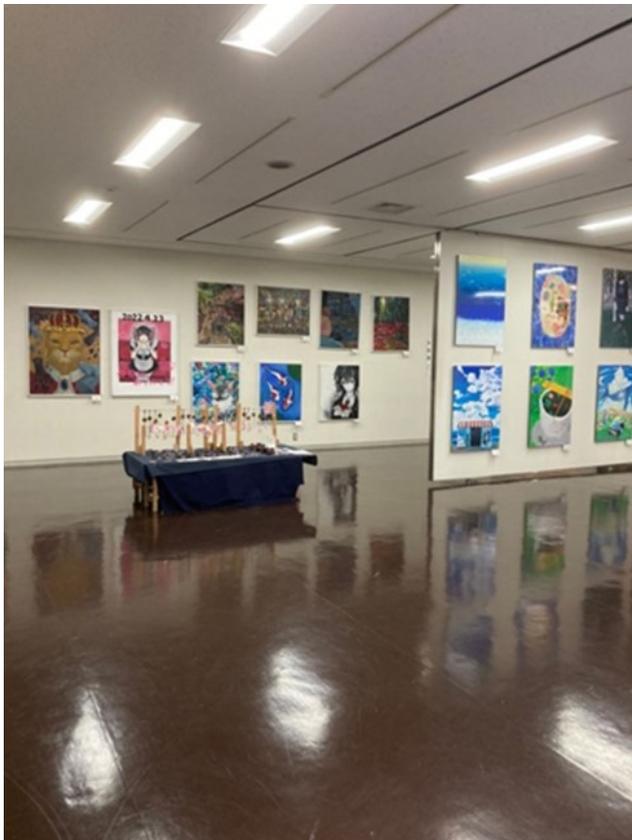
搬入出は 2 ルート 2 台のトラックで行った。作品の積み下ろし場所から会場までが割と近かったので、スムーズに作業ができた。

美術部員による、他校作品への推奨シールは実施したが、新型コロナウイルスの状況も考慮し、交流用紙による交流は実施しなかった。その代わりに、メッセージカードを受付に用意し、気になった作品についてコメントし、入り口前に設置したパネルの各校のファイルに入れる、という形をとった。美術部員は花柄のカード、一般の方は☆柄のカード、という風にわけて、来場者なら誰でもメッセージが書けるようにした。

受付は教員のみで行い、受付では万が一に備えて、来場者に名前と連絡先記入をお願いした。おおよその人が抵抗なく記入してくれたようである。

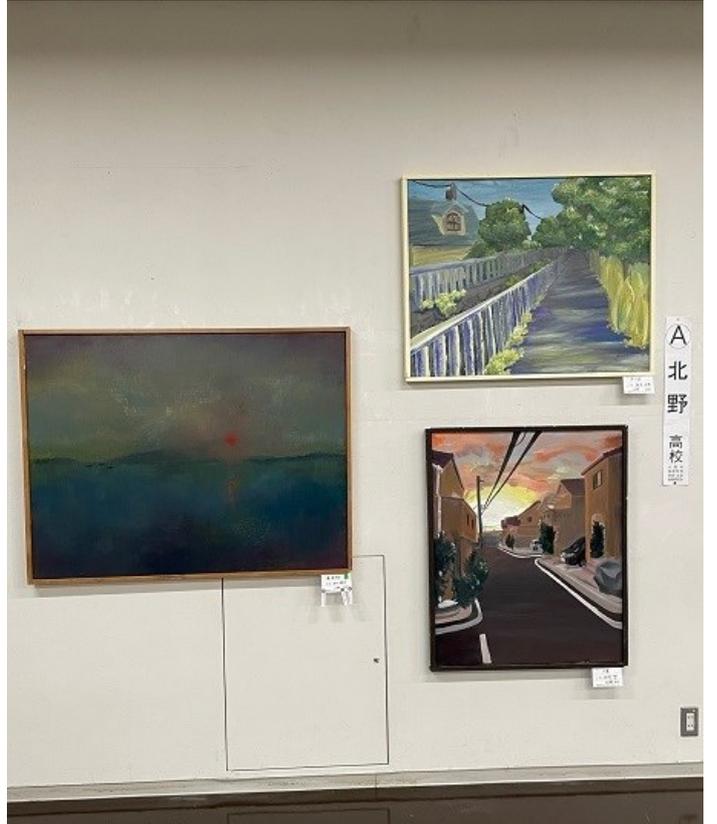
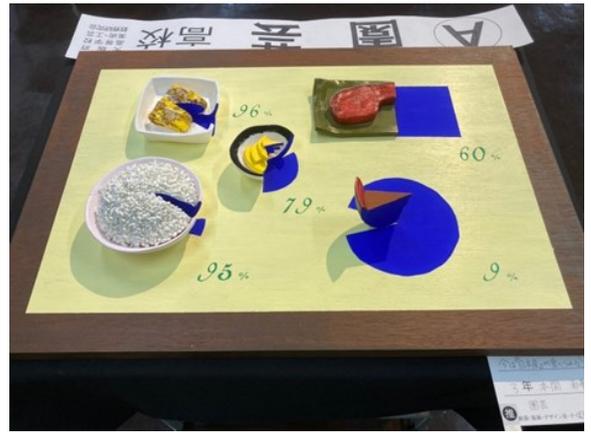
A ブロックは会期が早く、例年より 2 週間近く前倒しになった影響もあるのか、絵画では描き込みが浅い作品が多いように感じられた。作品のテーマも、人物や風景など素直な発想で描かれたものが多かった。アイデアを練り、構図、構成を工夫するプロセスを大切にすることが課題かもしれない。ブロックの教員の中ではデザイン、立体、工芸の作品が少ないことが残念、との声もあった。コロナによる出席停止等で作品の完成が間に合わず、展示を諦めざるを得ない生徒もいた。

審査は当日参加可能であった教員 8 名で行った。全体の作品点数が少なく、教員の人数も少ない為、部門ごとに担当を分けて審査はしなかった。しかし各分野の専門の教員のみで審査しないことで、評価されるべきポイントが見落とされていないか、と懸念する声もあった。分散開催により基準をとるのが難しい中、高校展の審査基準から外れない、レベルを下げないように留意して行ったため、優秀賞、優良賞の審査はより慎重なものになった。結果、優秀賞は該当なし、優良賞は絵画から 4 点、となった。





A 園芸 高校



A 北野 高校

